鮭川出張所
河川愛護モニター通信Vol.71

真室川小学校環境委員会の児童のみなさんから
いただいた質問・報告と、鮭川出張所からの回答をご紹介します。

報告1　雪どけ水が流れているのだろうと思いました。今年の雪どけは早いように思いました。



春になると、山に積もった雪が少しずつとけて川へ流れます。この水を「雪どけ水」といいます。雪どけ水は、田んぼや畑、生きものにとって大切な水です。

気象庁によると、今年の4月は東北地方の平均気温が平年より約1.2℃高く、暖かい日が多くなりました。
そのため、雪どけが進みやすい気象条件だったと考えられます。

報告2　田植えが始まりました。田んぼに水がたくさんありますが、その水は川の水なのかなと思いました。



多くの田んぼでは、川から取り入れた水を用水路（ようすいろ）を通して利用しています。

川の水は、頭首工（とうしゅこう）や水門（すいもん）などの施設から用水路へ流れ、田んぼまで運ばれます。
こうした施設や用水路は、地域の農業を支える大切な役割をしています。

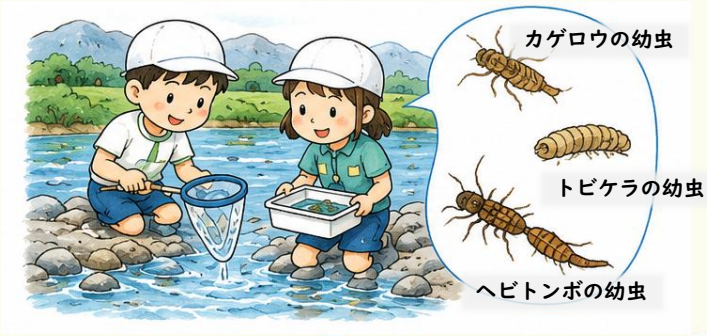
報告3　川の土手を見ていると、オレンジの車が走っていることがあります。見回りだと思いました。



オレンジ色の車で、川や堤防に異常がないか確認するために見回りをしています。

大雨の後には、堤防が壊れていないか、木やごみで川の流れが悪くなっていないかなどを点検し、地域の安全を守る大切な仕事です。

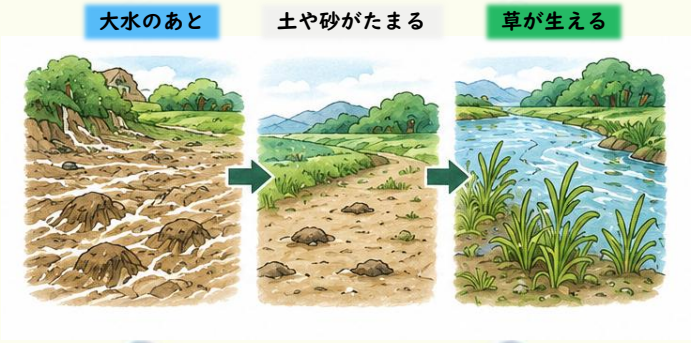
報告4　4年生で水生生物調査をしたら、きれいな川にすむ虫がいっぱいいました。ちょっと気持ち悪かったです。



見つけた虫は「水生生物（すいせいせいぶつ）」といい、川のきれいさを調べる大切な目印（指標）になります。

例えば、カゲロウやトビケラなどは、きれいな水でないと生きることができません。たくさん見つかったということは、その川がきれいな環境であることを教えてくれています。

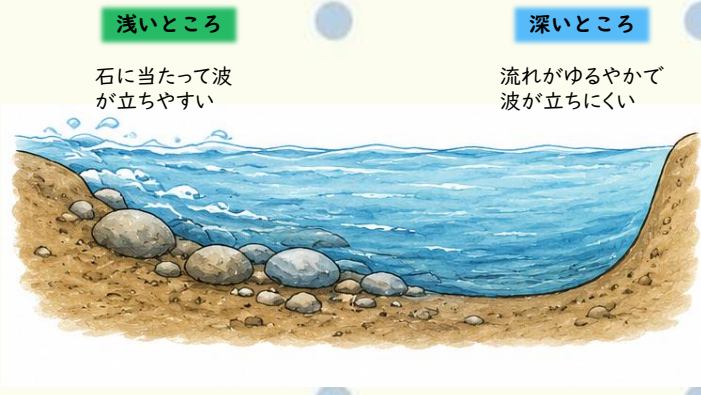
報告5　川に前よりも草がたくさん生えているなと思いました。おととしの大水の影響なのかなと思いました。



大雨や洪水が起こると、川は土や砂を運びます。その土砂がたまった場所には、草が生えやすくなることがあります。

また、雨が少なく川の水位が低い状態が続くと、川原が広がり、植物が育ちやすくなります。自然の川は季節や天気によって少しずつ姿を変えています。

報告6　深いところは波が立ってないのかなと思いました。



深いところでは、水がゆっくり流れることが多いため、波が立ちにくく見えます。

反対に、浅いところでは石や川底に水がぶつかるため、水面が波立ちます。波の様子を見ると、川の深さや流れの速さを予想することもできます。

川は毎日同じように見えても、天気や季節によって水の量や流れ、生きものの様子が変わります。これからも川をよく観察して、新しい発見を見つけてくださいね。